

# 開成中等初出場で準優勝 〜将棋中学校団体戦〜

5月16日（土）に札幌市中央区民センターで、日本将棋連盟北海道支部連合会主催の文部科学大臣杯第22回小・中学校将棋団体戦が行われた。本校からは、将棋文化研究班に参加する前期生3人が出場し、準優勝という好成績を収めた。



▲表彰式で笑顔を見せる左から三上駟さん、三上永純さん、中田蓮人さん

この大会は同一の小学校・中学校に在学する生徒3名（大将・副将・三将）で編成されたチームで行う団体戦である。中学生部門には全道から14チーム計42人が参加し、初心者から上級者もいた。本校は、大将3年三上永純さん、副将3年中田蓮人さん、三将1年三上駟さんのチームで出場した。

開成チームは1、2試合目を順調に勝ち進み、3試合目で2勝同士の大麻中学校との対戦になった。開成チームは副将と三将が負けでしまい、その試合を落としてしまった。だが、その敗戦をバネに4、5試合目ではどちらも勝ち、なんとか4勝1敗で終わることができた。大会の結果

| 試合数 | 対戦相手 | 大将 | 副将 | 三将 |
|-----|------|----|----|----|
| 一回戦 | 立命館C | ○  | ○  | ○  |
| 二回戦 | 明園B  | ○  | ○  | ○  |
| 三回戦 | 大麻   | ○  | ×  | ×  |
| 四回戦 | 北辰   | ×  | ○  | ○  |
| 五回戦 | 陵陽   | ×  | ○  | ○  |

今回の「放課後」Focus 二では天文班を紹介する。天文班は部員20人で顧問は山崎（恒）先生、沼田先生、藤井先生である。基本的には金曜日に活動しており、学祭前は時々火、水曜日にも活動する。天文班では、プロジェクターを使ってプラネタリウムを眺めたり、観望会に参加したりしている。学校外では、福移学園でのプラネタリウムや観望会、サイエンス広場、ジオフェスティバルなどに参加している。天文班は、前回のサイエンス広場では「光る！星座アクリルススタンド

## 天文班

### 放課後 focus!

を作ろう！」と「アメンボのヒミツ！」という体験ブースを出展している。開成祭では、星占いやストラップ販売をするという。天文班の特徴としては、学年の壁を感じにくいということだそう。そのためみんな仲良しでワイワイ活動をしている。班長の5年清水空葵さんは「天文班に入ってくれた人が、入る前よりも少しだけでも星のことを好きになってくれて、みんなでそれを楽しくワイワイした雰囲気ですんでいけるような天文班にしていきたい」と語った。

（三上・佐藤圭・増尾）

### ▲開成チームの試合結果

は優勝チームの大麻中学校が全勝の5勝で、準優勝は札幌開成中学校の4勝1敗、3位は陵陽中学校の3勝2敗となり、この3チームは授賞式で温かい拍手に包まれ、大会は幕を閉じた。副将として個人4勝を挙げた中田蓮人さんは、「今回の将棋大会では2位に終わってしまいました。初めてのユニットの団体戦で同年代の仲間と一緒に優勝を目指すと言ったことが今までなかった。新しい将棋をやりたい方を知ることができました！」と話した。また、三上永純さんとは三上駟さんも個人戦ではなく団体戦の良さを改めて実感し、楽しかったと話していた。またこの大会後、三上永純さんは北海道中学永名人決定戦という他の大会にも出場し、そこでも準優勝という

快挙を成し遂げた。将棋文化研究班の顧問の三上先生は、「班は放課後ユニットなので後期生が高文連の大会に出ることはできないのですが、中学生の大会は個人申し込みで出られます。今のところ班員だけでは来年の中学生団体戦に出られないので、将棋に興味のある前期生がいたら、ぜひ参加してほしいです」と語った。

（三上・村重）

# 開成校新聞

発行 開成中等新聞局  
顧問 三上  
編集長 沼津 松原  
制作者 北條 沼津  
松原 三上 村重  
佐藤圭 増尾

## 紙面紹介

1面 進路探究セミナー  
2・3面 IDU  
4面 中学生将棋団体戦



札幌開成新聞局  
公式キャラクター  
三上先生。新聞所に潜んでいる。

5月8日に北ガスアリーナ46で札幌市立高校に今春入学した1年生約2000人全員を対象とした進路探究セミナーが開催された。進路探究セミナーは毎年開催されており、今年度から本校が仲間入りした。

## 開成校新聞

進路探究セミナーは札幌市立高等学校である札幌開成、大通、旭丘、清田、新川、平岸、藻岩、啓北の計8校で集まり、「市立ファミリー」としてこれから始まる未来の一步を共に踏み出すことを目指して開催されている。当日は二部構成で行われた。第一部では昨年3月にプレゼンター

シオン大会に出場した各校代表の8人の選手によるトークセッションが実施された。その中では生徒自身が学生生活で取り組んできたことや努力したこと語った。また、将来の目標を持つことや、さまざまなことに挑戦することの重要性を高校一年生へ向けて伝えた。第二部では、自分の

目標を持ち、行動を起こしている31人の社会人である「探究人」や他校の生徒と交流をするワークシヨップが開催された。多くの生徒たちが積極的に話しかけ、自分の夢や興味のあることを共有しあった。その中で相手との共通点を見つけ、市立ファミリーとしてのつながりを深めた。

その後は、シンガーソングライターの泊尚輝さんによる市立高校テーマソング「キミと見る未来」のライブ



▲会場内を歩き歌う泊尚輝さん

## 広がる進路への視野

本セミナー終了後、参加した各校の生徒に感想や今後の目標について話を聞いた。Qセミナーで最も印象に残ったことは？

「他校の生徒の発表を聞いて、自分とは違う夢や考え方にも触れることが出来ました。同じ高校一年生でも目標を明確に持っている人がいて、刺激を受けました」（開成生徒）

「講演で『まずは挑戦してみようが大切』進路の幅を広げていきたい。」（旭丘生徒）

Q今後の高校生活で挑戦したいことは？

「勉強だけでなく、校内に数多く掲示されている中で自分が興味を持った課外活動には積極的に参加していきたい。」（旭丘生徒）

「まだ進路について深く考えられていないため、とにかく挑戦を繰り返して自分の本当にやりたいことを見つけていきたいです。」（藻岩生徒）

\*\*\*

参加した生徒からは「他校の生徒と交流が出来て視野が広がった」

「自分と共通の目標を持った仲間を見つけたことが出来た」といった声が多く聞かれた。

今回のセミナーで得た学びを、今後の高校生活や将来の進路選択に繋げていくことが期待される。

（北條結菜）



▲他校の生徒同士で交流を行う様子

# あつまれ 高一年生

# 進路探究セミナー



# Interdisciplinary Unitの学びと実態に迫る



## 活動に込められた思い 複数科目融合の学際的単元

今年も6月から学際的単元(IDU)が行われている。より多くの学びの選択肢を増やしたいという理由で24年度から全部で10種類の単元が設けられているIDUだが、MYP(1〜4年生)のプログラムであり、本校では「生徒にいつもと違う新たな学びを得てほしい」という教員の願いのもと設けられている。本校のIDUの総括を担当している鈴木綾先生に、本活動の意義や今の形に至るまでの経緯について話を伺った。

### 授業のねらい

IDUの根本には「1つ1つの科目・教科ではなく、2つ以上の教科やさまざまな複雑な事象から学びを得て将来に活かしてほしい」というねらいがある。本校のIDUプログラムが10種類の展開

改善が行われた。

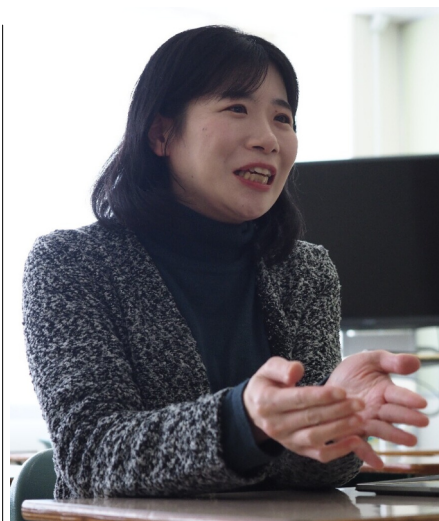
基礎期は学年全体で1つの単元を、充実期は学年ごとに、それぞれ4種類から自分の興味関心に合わせた単元を選択する。6月から10月にかけて、月に1〜2回のペースで秋ごろまで行われる。

### 先生方の苦勞

IDUの大変さとして主に3点挙げられる。

1点目は、新しく着任した先生方にこの取り組みのねらいや価値を十分に伝えることである。同時に、その内容を丁寧に伝えるためのコミュニケーションの重要性も感じられたという。

2点目は、全ての先生が何らかのIDUの授業を持つことになっ



▲インタビューに答える鈴木先生

また、6月と10月の2度、生徒と先生に行っていたアンケートでは、ただの振り返りとしてではなく工夫や学びをグラフを用いるなどの目に見える形で揭示したという。IDUの活動は、職場体験やPPP、SA活動などと被る面も多く、本当に必要なのかという声が生徒から多く挙がっていた。

## 知られざる授業作りの裏側

IDUの授業はMYP課程の生徒に向けて複数展開され、生徒は各々の興味に応じて授業を選択する。本記事では普段知ることの少ないIDU授業作成にかけられた思いを取り上げるべく、昨年度IDUにて社会と英語を組み合わせた「歴史人物の望む世界」の授業を担当した竹澤瑞樹先生とVincent King Chung Ng(イン)先生にインタビューを行った。

### 社会科 竹澤先生

昨年度の4年次生も今年度と同様に英語科と社会科を組み合わせた「歴史人物の望む世界」の授業展開が行われた。過去の偉人がいま生きているならば、この世界をどう考えるかを探究し、生徒はその立場に立ち、現代社会にメッセージを残すという授業構成がとられている。

竹澤先生は社会科の



▲インタビューに答える竹澤先生

教員としてアイディア出してから本授業の構築に携わった。「この企画は2年ほど前から考えていました」と語る。社会科において、歴史上の人物や出来事をもとに現代社会の課題について理解を深められることを、英語科においては「伝達力」や「コミュニケーションスキル」を通じて、効果的な意見の伝え方を

学べるように先生同士で相談を重ねながら授業作りが行われた。

IDUの授業の難しさは、社会科の良さと英語科の良さのどちらも活かしつつ、バランスの取れた学びを提供することを考えることだという。加えて、実際に受講した生徒が少しでも教科と教科のつながりの中に面白さを見つけられるよう、授業ごとに生徒の理解度を確認することも意識している。「歴史のみならず社会科には他教科とつながる面白さがある。ぜひIDUの機会を通して教科の新たな側面を知り、楽しさに気づいてくれたら嬉しい」と授業にかける思いを口にした。

### 英語科 イン先生

イン先生は「歴史人物の望む世界」の授業に携わった。昨年度は英語科教員4名と社会科教員3名で授業の展開がされた。

日本語を母語とする先生と英語を母語とする先生が混ざり、全く異なる教科同士を組み合わせているからこそ、言語を中心とした授業



▲インタビューを受けるイン先生

作りが求められトピックは限定されてしまうものの、IDUでは歴史がどのように言語によって影響を受け変容してきたのかといった、英語科の範囲を超えた授業展開ができる。これにより、多角的な視点をも身に付ける機会でもあると話す。

日本の学習体系において、学際的な学びを体験する機会は多くない。しかし、複雑な実社会では統合的なスキルが求められる場面も多い。「社会や英語が好きになる人も苦手な人も、二つを組み合わせてみることで全く違う視点を手に入れることができるので、ぜひ楽しんで受講してほしい」と生徒への期待を語った。(松原莉央)

私は1年間現地校留学をしていた。海外にはIDUに勝るくらいユニークな授業がたくさんある。例えば、私が選択したのはhospitalityという接客サービスを学ぶ授業。と言いつつもなぜか毎授業ただ調理をするだけだった。料理の内容は毎回様々で、世界各地のご飯ものから飲み物、お菓子までの種類豊富であり、楽しかった。(松原莉央)

## IDUの価値を考える

1つのテーマについて多角的に考える経験は、他の授業では得にくい新たな視点や考えを身につけられる貴重な機会である。開成の生徒は当たり前にIDUの授業を受けることができていたからこそ、その価値についてよく考えながら授業を受けてほしい。(沼津陽咲)

最後に、IDUに対して鈴木先生は「開成は今年で開校11周年を迎え、これまで歴史を築いてきた。2つ以上の異なる分野を融合させて行う授業や活動などは他にはあまりないため、開成として誇らしく素晴らしい活動である。昨年度の開校10周年記念式典でもIDUの授業公開をしたように、IDUの存在について外部の方々にもっと知ってほしい」と語った。(沼津陽咲)